

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：四国横断自動車道 <small>あなん とくしまひがし</small> 阿南四万十線 阿南～徳島東	事業区分 ：高速自動車国道 (新直轄)	事業主体 ：国土交通省 四国地方整備局
起終点 ：自：徳島県阿南市下大野町 至：徳島県徳島市北沖洲	延長 ：17.7km	
事業概要 ：四国横断自動車道は、阿南市を起点に、徳島市、高松市を経て四国中央市において四国縦貫自動車道と交差し、高知市、四万十市を経て大洲市に至る延長約441kmの高規格幹線道路である。この路線は、「四国8の字ネットワーク」の大部分を占め、四国における信頼性の高い道路ネットワークの確保や地域の閉塞感の解消など、広域交流と地域の「安心」と「活力」を支える重要な路線である。阿南～徳島東間は、新直轄方式により整備される区間であり、高速ネットワークの空白地帯解消のために計画されている地域高規格道路「阿南安芸自動車道」と相まって、四国東南部の発展に重要な役割を果たすことが期待されている延長約18kmの道路である。		
阿南～小松島：H15年度事業化	阿南～小松島：H8年度都市計画決定	阿南～小松島：H19年度用地着手
小松島～徳島東：H17年度事業化	小松島～徳島東：H6年度都市計画決定	小松島～徳島東：未着手
小松島～徳島東：H19年度用地着手	小松島～徳島東：未着手	小松島～徳島東：未着手
全体事業費 ：約1,404億円 事業進捗率 ：2.6% 供用済延長 ：0km 計画交通量 ：19,000台/日		
費用対効果分析結果 B/C：(事業全体) 1.2 (残事業) 1.2	総費用 ：(残事業)/事業全体 1,044/1,098億円 (事業費：1,018/1,072億円) (維持管理費：26/26億円)	総便益 ：(残事業)/事業全体 1,282/1,282億円 (走行時間短縮便益：1,033/1,033億円) (走行経費減少便益：182/182億円) (交通事故減少便益：67/67億円)
基準年 ：平成20年度		
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.6(交通量+10%) B/C=1.0(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.1(事業費+10%) B/C=1.4(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.2(事業期間+1年) B/C=1.3(事業期間-1年)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（並行区間等の旅行速度改善が見込まれる） ・物流効率化の支援（重要港湾徳島小松島港へアクセス向上が見込まれる） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設である徳島赤十字病院へのアクセス向上が見込まれる） 他16項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 四国横断自動車道阿南四万十線（阿南～徳島東）は、信頼性の道路ネットワークの確保や地域の閉塞感の解消など、広域交流と地域の「安心」と「活力」を支える重要な役割を果たすことが期待されており、徳島市をはじめとする関係4市9町1村の首長で構成される東四国横断自動車道建設促進期成同盟会等より早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・道路整備：日和佐道路2工区開通（平成19年5月） ・拠点整備：徳島県南部健康運動公園一部開園（平成19年5月） ・市町村合併により那賀川町と羽ノ浦町が阿南市に編入（平成18年3月）		
事業の進捗状況、残事業の内容等 阿南IC～小松島ICでは約7割で設計協議が合意し、用地買収・工事を推進中。小松島IC～徳島東ICでも早期の設計協議合意に向け事業を推進中。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地買収・工事の進捗を図り、阿南IC～小松島ICを平成20年代後半、小松島IC～徳島東ICを平成30年代前半に暫定2車線供用予定。		
施設の構造や工法の変更等 徳島東ICにおいてランプベット型からダイヤモンド型へ形式を見直す等のコスト縮減を図っている。		
対応方針 ：事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図 <div style="text-align: center; border: 1px solid red; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 四国横断自動車道 阿南四万十線(阿南～徳島東) </div> 		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。